

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2670600424		
法人名	有限会社 カスタネット		
事業所名	グループホーム かすたねっと 2階コスモス		
所在地	〒606-0024 京都市左京区岩倉花園町401		
自己評価作成日	平成29年10月14日	評価結果市町村受理日	平成30年2月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail%2017_022_kani=true&JiryoSyosyoCd=2670600424-00&PrefCd=26&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪府北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成29年11月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者さまとの日常生活の中、一人一人の個人を尊重し、安全かつ豊かな生活をお送り頂ける様に日々のレクリエーション等に取り組んでいます。レクリエーションに限らず、個人のニーズや改善点の発見に努め、より良い支援ができるよう心掛けております。散歩や筋力体操を毎日行うことにより、個人の筋力維持に努めています。ホールには季節に応じた生け花や壁画を利用者様と一緒に作成して飾る事により季節感を共有できたり俳句・将棋・書道など多様な活動に職員と一緒に挑戦したりとアットホームな環境で充実した日々を送っていただいております。外での食事会やボランティアの方々の協力による音楽コンサート・音楽療法・人形劇・生け花教室などの行事も企画して明るく楽しい生活を提供しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念に基づいた支援を提供出来るように心掛けています。利用者一人一人がその人らしい暮らしができる様に努めています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ちかくの神社に初詣や秋祭りに神社にお酒を奉納したりしている。利用者と積極的に散歩などで外に出るように心掛け、ご近所とのコミュニケーションもとっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月地域包括支援センター主催の地域ケア会議に参加して地域の様々な業種の方々と交流や意見交換を行っている。岩倉認知症部会のメンバーとなって、地域の認知症サポート事業に参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	様々な立場の方に参加して頂き、多くの意見やアドバイスをもらい運営に反映させている。運営推進会議の参加者に消防訓練に参加して頂き、施設の防災にも協力していただいている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターの職員や地域会議に参加されている市職員に相談したりしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者さまの尊厳を第一に考え、いかなる場合でも身体拘束はせず、転倒や徘徊による外出の事故を防ぐために見守りを強化している。玄関のドアは夜間を除き、鍵を掛けず開放している。		

グループホームかすたねっと(コスモス)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内外の研修を通じて虐待に対する意識と知識の向上を図り、職員のストレス軽減のためにカンファレンスを利用して話し合いの場を設けている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員一人一人が権利擁護について理解ができるように内部・外部研修への参加に努めており、必要があれば地域包括支援センターより、研修の案内を頂いたりしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては、代表者・管理者がご家族に対してケアの内容や費用などの重要事項を十分に説明し理解を得た上で締結するようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	匿名アンケートを通して要望やご意見を頂く様にしている。また、普段御来所された際にもお聞きするようにしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常業務での疑問点や気づいた点などは、各フロア主任がまとめ、管理者・運営者に報告し、カンファレンスで改善点を全職員で話し合い、決定事項は全職員で共有するようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	運営者は時間の許す限り、現場に入り利用者・職員の情報収集に努めている。また、面談やOJTから職員の悩みや考え方を把握し職場環境を整えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	正職員パート等を問わず、全職員に研修を受けるように努めている。研修内容等は、カンファレンスなどで報告し、全職員が共有できるようにしている。		

グループホームかすたねっと(コスモス)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GHオリンピックや他ホームへ職員を派遣したり、受け入れたりしながら、お互いの研鑽を重ねている。また、毎年、新人研修や必要とする研修・課題を明確にして様々な講習会などに参加するように努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人様、ご家族様より身体状況、生活歴等の情報を頂いて、それに基づき職員は馴染みの関係や、信頼を築きながらお話をして頂けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居者様、ご家族様が困っていたり不安に思っていることの解決のお手伝い出来る様に、面会時に日常の様子を報告している。また、それらの問題を共有し、解決へのご協力をお願いするときもある。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス計画書を作成するにあたり、ご本人・ご家族様と十分に話し合い、意見・要望に沿える様に計画書を検討し、安心出来る環境を築けるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人ひとりの特徴や希望等を把握し、レクリエーション等個々に合った日々の生活の中でそれらを支援している。また、家事などを手伝ったり教えて頂いたりして日常生活を共にするよう心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時、居室で大切な時間を共に過ごして頂いたり、行事参加等の定期的な広報誌を見て頂いて日常のご様子は報告している。また、施設のイベントにはご家族にも声掛けしてなるべく参加して頂くように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様、親戚、知人等の訪問を歓迎し、居室やホールにてゆっくりとくつろいで頂ける様な環境作りには気を配っている。また、訪問しやすい様に声掛けをし、良好な関係を維持出来る様に支援している。		

グループホームかすたねっと(コスモス)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの性格や感情の変化を理解し、お互いが関わり、支えあえる関係の維持が出来る様に支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や亡くなられて退所された場合、お見舞いに行ったり、ご家族様からお葉書やお手紙を頂いたりします。それがずっと続く事もあれば、いつの間にか途絶えてしまう事もあります。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの好きな事や生活リズムを把握し理解に努め、困難な方には、その方の立場にたった希望を取り入れ検討しながら支援しています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	なるべく在宅生活延長のように心がけ、その方の生活歴や趣味、得意な事を活かせるように支援をしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身状態は、健康管理表でスタッフ全員が把握出来ている。また、歌を歌いたい方、お散歩に行きたい方、食事の準備のお手伝いをしたい方などそれぞれの1日の過ごし方を把握する様に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	より良い暮らしのために、ご本人や家族様の意向をお聞きし、月一回のカンファレンスでスタッフが話し合い介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の個別ケース記録でスタッフ間の情報共有が出来ており、ケアの実践や介護計画の見直しに活かしている。		

グループホームかすたねっと(コスモス)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ボランティアの申し出を積極的に受け入れ、季節に応じた音楽会や紙芝居、人形劇などを開催していただいている。また、個別でリハビリの先生にもサポートして頂いている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	周辺の地域の方やボランティアの方などの協力を得て、ご利用者様一人ひとりが安全で豊かな暮らしを楽しめるよう支援している。また、定期的に災害時における避難方法の指導も受けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用者様ご本人とご家族様の希望を大切にしながら、適切な医療を受けられるように支援をしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護時にはご利用者様の日々の心身の状態や気づいた点などの情報を報告している。ご利用者様に何らかの変化があった場合には、看護師に相談を行い、適切な指示を受け、対応出来るようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族様の希望や担当医師の指示により、病院へ入院する事が出来る。入院中でのご利用者様の状況も医療機関を通じて、こちらに情報が伝わるように連携が取れている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様から看取りの希望があり、過去に行っている。ご利用者様の終末期のあり方については、ご家族様・施設・担当医師の3者で話し合いを早い段階で実施している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は日常、ご利用者様の様子や小さな変化を観察し、急変への気づきや事故発生防止に努めている。万が一の急変・事故発生時には医師と連携して迅速に対応出来る様に日々努めている。		

グループホームかすたねっと(コスモス)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の方や管轄する消防署の協力を得ながら、定期的に消防訓練を実施している。また、災害時は職員がすぐに対応出来る様、連絡網を作成しており万全の体制を整えている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員はご利用者様一人ひとりの人格を尊重し、個人の尊厳の保持に努め、適切な声掛けや対応をするよう常に心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様一人ひとりがご自分の思い・希望を気兼ねなくお話して頂けるよう心掛けながら、職員は声掛けを行っている。思いを的確に伝えられないご利用者様については、表情やしぐさなどから思いをくみ取るよう努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様一人ひとりのペースを大切に、その人らしい一日を過ごして頂ける様、日々支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝髪を整えたり身だしなみやその人らしいおしゃれに気を配っている。また、身だしなみへの意欲が向上するように支援も行っている。さらに定期的に出張理美容も利用している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の食事について準備から片付けまで可能な限り、ご利用者様と共に行っている。食事形態もご利用者様に合わせてきざみ・とろみ食を提供している。また食事中においても声掛けを実施し、楽しい食事となるよう支援している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の食事量・水分量は全て記録しており、摂取が少ないときは声掛けするなどを行い、正常になる様支援している。また、毎月体重測定を実施し、日常の食事量が適量であるかの見直しも行っている。		

グループホームかすたねっと(コスモス)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご利用者様一人ひとりに適した口腔ケアを起床時と毎食後に実施している。また、必要に応じて歯科往診も行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各利用者の排泄を記録し、排泄パターンを把握する事で都度手洗いの案内、声かけをおこなっている。また、状況変化にも適時対応している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	散歩、悪天時には廊下歩行や筋力体操を行い、身体を動かすように心掛けている。また、食事内容の工夫や水分量の調整をしたり、場合によっては便秘薬を使用したりしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は月ごとに計画し、実施しているが、体調や希望によって対応変更している。また、季節によって浴室の温度や湯温を調整している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	車椅子の利用者は、定期的な臥床を取り入れたり、体位の変化を促し楽に過ごして頂ける様工夫している。居室の空調や照明などにも気を配っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の服薬リストはファイルに保管し、内容や副作用などを把握する様に努めている。変更があれば主治医から説明を受け、情報を共有して生活の変化を記録し経過を観察している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の出来る事を理解し、役割分担を決めて継続してお手伝いができるよう支援している。また、レクリエーションも、個人が楽しんでできるものを提供している。		

グループホームかすたねっと(コスモス)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には近所へ散歩したり県外にドライブに行ったりして気分転換を図っている。また1年を通して地域の行事や外部のイベントに参加できるように努めている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者全員ではないが、買い物に同行し、自分自身で好きなものを購入できるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人からの通話の希望があれば電話を取り次いだり、要望があれば、代理で手紙をポストに投函したりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日中は自然光を取り入れたり換気をしたりして気温や湿度を調整し、快適な空間作りに努めている。また、利用者が生けた花を玄関に飾ったりホールに壁画を貼ったりして季節を感じてもらえるように工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者の希望に添って居室で過ごしたり、リラックスできるようなソファを用意したりと一人一人の居場所の確保に努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には慣れ親しんだ家具を置き、安心して生活して頂ける様にしている。また、ご家族との思い出の写真やレクリエーションで作成した作品を居室に飾ったりしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	通路を広く取り、車椅子や押し車が安全に通行できるように整理整頓している。トイレの戸の色を同じにして分かりやすくするといった工夫で安全な自立支援を行っている。		